

せんれい ちゅうこうせい 洗 禮 を 受 け た 中 高 生 の た め に

にちじょうせいかつ 日 常 生 活

Daily Life



☆目次

| | | |
|-----------|--------------|----|
| Lesson 1 | 自分らしく生きる | 1 |
| Lesson 2 | 勉強と進路 | 2 |
| Lesson 3 | 部活動 | 3 |
| Lesson 4 | 恋愛と結婚と性 | 4 |
| Lesson 5 | 友だち関係 | 5 |
| Lesson 6 | 親との関係 | 6 |
| Lesson 7 | 誘惑にどう対処するか | 7 |
| Lesson 8 | 失敗や挫折の扱い方 | 8 |
| Lesson 9 | 他の宗教・偶像礼拝・占い | 9 |
| Lesson 10 | 死の問題 | 10 |
| Lesson 11 | 携帯やネットの使い方 | 11 |
| Lesson 12 | 新しい文化・趣味について | 12 |

1 自分らしく生きる

あなたは自分が好きですか？

「好きだよ！」というあなた。神様が与えてくださっているものを感謝できるのはすばらしいことです。「あんまり」というあなた。あなたも大丈夫。自分を客観的に見て、いいところと悪いところを冷静に判断できているのでしょうか。「大嫌い！」というあなた。自分のいやなところがとりわけ目についてたまらないからでしょうか。これもけっして間違った考えではありません。理想の自分になれないもどかしさを抱えるのも、大人になるための大事なステップです。とはいうものの、「自分はなんていやなんだろう」と思いながら生きるのはとてもつらいですね。こんなとき、どんな考えをしたらいいのでしょうか。

聖書は、「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している」（イザヤ 43:4）と言っています。自分があまり好きではないかもしれないし、自分の欠点ばかりが目につくかもしれないけれど、神様にとっては、あなたは最高の存在、心から愛する存在だとこのみことばは言っています。神様はあなたを特別にユニークな存在として造ってくださいました。あなたの顔を造られたのも、あなたの体を造られたのも、あなたの性格を造られたのも、あなたをあなたとして造られたのは、神様です。あなたにとって気に入らない部分こそが神様が与えられたユニークなところかもしれません。

また聖書は「私たちは、与えられた恵みに従って、異なった賜物を持っている」（ローマ 12:6）とも言っています。私たちはとかく人と自分を比べます。あの人はあんなによいところがたくさんあるのに、自分にはちっともない、神様は不公平ではないかと思うこともあります。でも神様は、私たちにそれぞれ違う賜物、よいところをくださっています。これは神様のやりかたです。他の人と同じものをお与えになるわけではないのです。あなたには必ずすばらしいところがあります。そしてそれは神様のために使うのにとっても役に立つものですから、ぜひ見つけましょう。見つからないとそれを使うことがむずかしいからです。意外と自分で自分のいいところを見つけるのはむずかしいものです。またわかっているとんでも、他の人から見ると違うところが賜物だったりすることもあります。神様のためにちょっと勇気を出して、「私のいいところってどこ？」って友達や教会の先輩に聞いてみてください。意外な答えが返ってきて、にんまりしてしまうかもしれませんよ。（信仰生活「奉仕と賜物」も参考にしてください）



もちろん良いものをたくさんいただいている人もいます。でもそれはあなた自身がそれを使って楽しむだけのためではありません。そういう人は決して高慢にならないでください。それよりもそれをどうやって神様のために使ったらいいだろうと真剣に考えて下さい。与えられたものに誠実に真剣に生きる、それこそクリスチャンとしての生き方です。

神様は、あなたのためにひとり子をおしめず十字架にかけてくださいました。そのように与えられたあなただけの人生を、自分が気に入らないからといって、なげやりに生きないでください。神様が尊いひとり子をおしめず助けたあなたを、あなた自身が見捨てないでください。あなたは愛されています。あなたは神様が下さった恵みのなかに今生きています。あなたの人生を喜んで生きていきましょう。神様はあなたの人生を喜びと恵みで満たしてください。

2 勉強と進路

べんきょう
勉強をすることが好きですか？ 嫌いですか？



勉強をして新しい発見があったり、知識を得ることは楽しいから好きだという人もいるでしょう。そんな人は、もっともっと新しいことを知りたいと思うでしょう。逆に勉強が苦手な、勉強なんてつまらないと思う人もいます。また知識の詰め込みや受験のための勉強になっていて、勉強する意欲がわかないで悩んでいる人もいます。そもそも私たちは何のために勉強するのでしょうか。

まず勉強は神様に用いられる人になるためにもとても大切な準備です。いろいろな知識をもっていなければ、さまざまな分野の人たちのところに出て行って福音を宣べ伝えることはできません。多くのクリスチャンたちが、自分の得意分野をもって神様に用いられているのです。また、神様に用いられるためには、学校の勉強だけでなく、いろいろな人生経験をすることが大切です。たとえば、教会奉仕、キャンプ、ボランティア活動、異文化経験などをすることで、自分の幅を広げることができます。

また、私たちは新しいことを知りたい、知識を蓄えたいという心が神様から与えられています。これは動物や植物には与えられていなくて、「神のかたち」に創造された人間にのみ与えられたものです。人間は、この神様から与えられた知的好奇心をもって、神様が創造された世界の理解を深めたり、さまざまな発見をして新しいものを開発してきました。そして今学んでいるのは、その結果得られたものです。ですから、今あなたが続けている勉強で、役に立たないものはありません。

さらに大切なことは、神様を恐れ、神様について知るといことです。箴言1章7節には、「**主を恐れることは知識の初めである。愚か者は知恵と訓戒をさげすむ**」と書かれています。神様抜きに多くの知識を持っても、勉強を一生懸命しても、それはむなしく、聖書によれば愚か者なのです。

中高生になると親や先生や周りの人たちが、進路をどうするか聞いてくることでしょう。あなた自身も将来何をやりたいかを考え、進路を決めたいと思います。あなたが自分の進路を考える上で大切なことは、優秀な大学に入って、一流企業に就職して、お金持ちになることが必ずしも幸せではないということです。私たちは聖書や祈りを通して、神様のお考えを聞くことが大切です。ですから多くの雑音や人間的な思いの中から、神様の「かすかな細い声」（1列王19:12）を聞き分けていきましょう。そして、みこころの道だとわかったら、自分の思いを横に置いて、神様のみこころに従っていくのです。そのように神様のみこころに従うならば、神様から大きな祝福が与えられます。

また、いろいろなことを経験していく中で、自分の進むべき道はこれであると示されることもあります。ですから、みこころを求めていくために、ぜひいろいろな経験をしたらいいと思います。その中で失敗もするかもしれませんが、それは後々貴重な経験になることでしょう。また自分一人で悩んだり、決してしないで、信頼できる信仰の先輩たちに気軽に相談することも大切です。

さらに、自分に神様からのどのような賜物が与えられているかを考えることも大切です。神様は、あなたにふさわしい賜物を与えてくださっています。ですから私たちはその賜物を良く管理し、用いていく必要があるのです。そして私たちの働きを通して、神様の栄光を現していくことが私たちに求められています。

3 ぶかつどう 部活動

ちゅう

中 高校生生活といえば「部活！」という人も多いでしょう。

全員が何かの部活に所属することを義務づけている学校もあります。そんなことから、部活と教会生活とのかねあいで悩んでいる人もいます。あなたは、部活にどんな魅力を感じていますか？仲間といっしょに活動することの楽しさ・充実感。個人的に上達していくことの達成感。やり続ける忍耐力と精神力。試合や発表会・演奏会などでの緊張と喜び。チームワークやリーダーシップを学ぶよい機会にもなるでしょう。ただし、クリスチャンとして部活にかかわる時、よ〜く考えるべきことがあります。それは部活のために教会に来なくなってしまおうと、その後、教会にもどって来ない場合が多いということです。これはとても残念でさびしいことです。ですから、次のことをぜひ考えてください。



優先順位を確認しよう

あなたの生涯で一番価値のあることは何でしょうか？イエス様はこう言っています。「人は、たとえ全世界を手に入れても、まことのいのちを損じたら、何の得がありません」（マタイ 16:26）。まことのいのち（神様による救い）は、全世界よりも価値のあるものです。どんなに勉強やスポーツ、音楽ができて、神様から離れたら、自分の罪のために滅びてしまいます。ぜひ、このことを真剣に考えてください。また、イエス様はこうも言っています。「だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます」（マタイ 6:33）。神様を第一に選ばば、必要なものはすべて、必ず神様が与えてくださると約束されています。

あなたにとって、神様はどんなお方でしょうか？罪から救い、人生すべてを導いてくださるイエス様以上に価値のあるものはこの宇宙に存在しません。だから、自分の人生の優先順位をはっきりとすることが大切です。

具体的アドバイス

神様を第一にしながら部活を続けた先輩はたくさんいます。私たちは、そういう先輩から大切な具体的アドバイスをもらうことができます。

①部活を始める前に、顧問の先生にクリスチャンとして礼拝がいかに大切かを伝えましょう。何事も最初が大切です。部活を始めてから悩み続けることがないためにも、部活を始める前に顧問の先生に話しに行きましょう。必要なら、親や牧師に手紙を書いてもらい、持っていくのもいいと思います。

②工夫をしましょう。日曜日に大切な試合や発表会がある場合もあるでしょう。そういう時は、あらかじめどうしたらよいか、牧師や教会学校の先生と話し合っておきましょう。たとえば、ある先輩は、練習試合なら試合を休み、大切な試合の時だけ試合に出ました。その場合でも、礼拝を早朝や夜にしてもらうことができないかを相談したり、あるいは後で録音された説教を聞いたり、何らかの形で神様を礼拝することを守り続ける工夫をしました。

イエス様は、あなたのために十字架の上で命を捨ててくださいました。そのイエス様の愛に精一杯、こたえていきましょう。そうすれば、あなたの人生は必ず祝福されることでしょう！

4 恋愛と結婚と性

ずばり、あなたには好きな子がいますか？

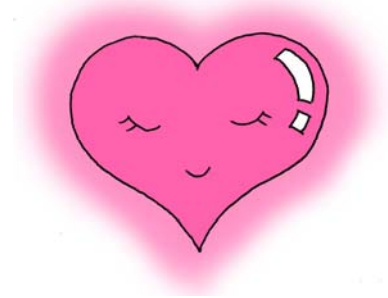
女の子はYESの返事の子が多いかも。男の子はべつに、という子も多いかもしれません。「恋愛の話は、教会ではタブー」なんてことはありません。なぜなら、私たちの中にだれかが好きっていう思いが生まれるのは、神様が私たちをそのようにお造りになったからです。すべての人が、なんらかの恋愛感情をもったことがあるのではないのでしょうか。

恋愛感情は、実は、大人になっていくために神様が下さったとても大切な感情です。心がときめく思いは、私たちに元気をくれたり、自分のことを後回しにして、その人の最善を考へる自己犠牲の心をはぐくんでくれます。やがて、神様が与えてくださるかもしれないたった一人の将来のパートナー、結婚相手がだれかを判断するための知恵も養ってくれます。

ただし恋愛感情は、愛とは違います。かっこいいタレントやスポーツ選手を見て恋愛感情を持つ人もいれば、中にはマンガの主人公に心ときめく思いを抱く人もいます。でも、去年は好きだったのに、今年はもう全然好きじゃない、ということもありますね。だれかが好きという思いは、感情ですから、状況によって変わります。それに対して愛は、たとえ心ときめく思いをその人に抱かなくても、その人のために自分を犠牲にして、いつまでも尽くすことができるものです。愛とは感情ではなく、意志と言えるでしょう。そして結婚には恋愛感情だけではなく、愛が必要です。

この社会は私たちに、恋愛感情と愛を混同させてしまうような間違っただ情報を送っています。恋愛感情があれば、本来は結婚した相手にだけに許されている性関係を持っていいと私たちに思わせるのです。悲しいことに、多くの人がこの間違っただ情報に乗せられて、間違っただ行動をとっています。でも神様は、聖書の中で「姦淫してはならない」(出エジプト 20:14) と言っておられます。十戒の第七戒です。つまり神様は、結婚した相手以外との性的な関係をはっきりと禁止しているのです。

性的な関係は、神様の前で愛を誓い合っただ結婚した人同士にのみ、神様がお与えになっただ祝福です。だから、結婚していない人が性的な関係を持つと、罪とともに悲しい現実が待っています。クリスチヤンでない人たちは、その傷はたいしたことではないと思っただ入もうとしています。実際には心にも体にも多くの消えることのない傷をつけてしまいます。だから、男の子も女の子も、性的な関係は結婚するまで待つ、というのはとても大切なことなのです。



この世界には、恋愛と結婚と性に関係するたくさんの誘惑が私たちを取り巻いています。もし、罪を犯す危険があるなと思ったら、ぜひ信頼できる人に話してお祈りしてもらいましょう。恋愛と結婚と性の問題は、あなたの将来の歩みが祝福されるかどうかの大切な問題です。今の感情に振り回されず、クリスチャンとしてどう行動したらよいかを冷静に考えてみましょう。結婚するまでだれとも性的な関係を持たない、ということを誓って、お互いが誘惑から守られるようにグループを作り、祈り合うクリスチャンの若者も増えています。多くのクリスチャンがこの誘惑に勝って、祝福された結婚に導かれています。あなたは一人ではありませんよ。

5 とも かんけい 友だち関係

あなたにはどんな友だちがいますか？

中高生になると、クラスの友だちのほかにも、部活・塾などの友だちができ、小学生の時と比べて、友人の層が広がっていく人もいられるでしょう。多い少ないはともかく、どのような人と友人となるかはとても大切なことです。聖書の中の箴言には、「鉄は鉄によってとがれ、人はその友によってとがれる」（箴言27:17）と書かれています。私たちは友人によって、良くも悪くもなる可能性があるのです。だから、どんな友人と付き合うかは実はとても大切なことです。

でもクリスチャン以外の人と友だちになってはいけないという意味ではありません。もしそうなら、クリスチャン人口が1%にも満たない日本で生活することは難しくなってしまいます。また、クリスチャンばかりと付き合っていたら、伝道の機会がなくなるのです。では、クリスチャン以外の人と友だちになったときに、どんなことに気をつけたらいいのでしょうか？それは、信仰に関して妥協しないことです。確かにパウロは、人々を救うために、相手のようになることを勧めています（Iコリント 9:22）。でも、これは私たちが100%彼らに合わせて、歩むことを意味していません。もし私たちが彼らに合わせてすぎてクリスチャンらしくない生活態度を取るなら、彼らはクリスチャンが自分たちと全く変わらない人だと思ってしまうのです。

イエス様は、山上の説教の中で「あなたがたは、地の塩です。もし塩が塩けをなくしたら、何によって塩けをつけるのでしょうか。もう何の役にも立たず、外に捨てられて、人々に踏みつけられるだけです」（マタイ 5:13）とされています。クリスチャンは地の塩であることが求められていることがわかります。ですから、クリスチャンであることを表明して、付き合っていくことが大切なのです。確かにクリスチャンだということで、いやな顔をする友だちも出てくるかもしれません。でも興味を抱く友だちも出てくるとおもう。そうすれば、絶好の伝道のチャンスです。ぜひ、クリスチャンであることを伝えられるチャンスを探しましょう。

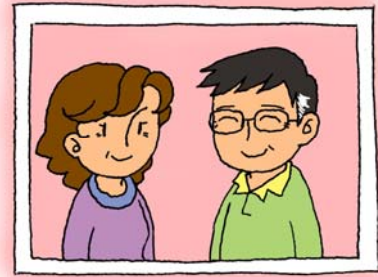


中高生になると、クラスの中でいくつかの集団ができることがあります。その集団の中で悪口を言ったり、ある特定の子をいじめることもあるかもしれません。そういう時は、だれかが悲しい思いをせず、あなたが罪を犯さず、その友人を助けることができるように、神様に知恵を下さるように祈りましょう。その子の側によりそってあげることも必要でしょう。イエス様は私たちの友となってくださいました。私たちも、その友だちの隣人になりましょう。また時には、この集団から離れることも必要かもしれません。もちろん自分が標的になることもあるでしょう。神様が必ず、ふさわしい友だちを与えてくださいますから、神様に信頼して祈りましょう。もし、自分だけの力で解決できない場合は、先生や親や牧師に相談しましょう。神様は、あなたが悲しい思いの中でずっと過ごすことを決してお喜びにはなりません。あなたを愛してくださっている神様が、解決してくださることを信じ祈りましょう。あなたの最高の友は、イエス・キリストであることも忘れないでください。「人がその友のためにいのちを捨てるといふ、これよりも大きな愛はだれも持っていません。わたしがあなたがたに命じることをあなたがたが行なうなら、あなたがたはわたしの友です」(ヨハネ 15:13～14)。

6 おや かんけい 親との関係

あなたは親とどんな関係ですか？

中高生になると、今までの親との関係がかわってきます。親のことがうっとおしかったり、もっと自由になりたいという思いが出てきたり、親に反抗したり、親を批判的に見るようになることもあるでしょう。これは自分のことは自分で決めたいという自我が成長してきた証拠であり、決して悪いことではありません。とはいうものの、常に腹立たしい思いをもったり、どなったりすることはクリスチャンとしてできればとりたくない行動です。



それに、自我だけを押し通すならば、他人と協調しながら生活することができなくなります。自我を上手に調整していくことが大切です。それを『自律』といいます。中高生時代は、この自我と自律の思いが心に同居するので、自分でもどうして良いのかが分からなくなってしまうことがあります。そんなあなたは、親との関係を通して、人にどのように接したらよいかを学ぶことができます。そして、親を一人の独立した人（強さ弱さを含めて）として受け入れられるようになると、人は自立できるのです。

親のことをもっと知ろう

親とよい関係を保つためには、親のことをもっと知ることがプラスになります。信仰のこと、仕事のこと、両親の出会いのこと、中高生の時のことなどを知ることによって親を客観的に見るができるようになっていきます。直接聞くのが一番いいですが、自分なりに親のことを調べてみるのもよいでしょう。親がどれだけ苦労して自分を育ててくれたか、自分のためにどんな犠牲を払っているか調べてみるのもよいでしょう。クリスチャンの親の場合には、親の話を通して自分がこれからどのように信仰者として歩んでいけばよいか、参考になることもあります。

神様の命令に従うために

「子どもたちよ。主にあって両親に従いなさい。これは正しいことだからです」（エペソ 6:1）「子どもたちよ。すべてのことについて、両親に従いなさい。それは主に喜ばれることだからです」（コロサイ 3:20）と聖書は言っています。「主にあって」とは主がのぞまれることだから、信仰によってという意味です。親が立派な人であつたら従いなさいとは書いてありません。もし親のいうことに疑問を感じる時は、思い切って自分の思いを、心を静めて伝えてみましょう。話をすることによって、納得のいく結論がでるかもしれません。神様が親を与えてくれたのは、神様に従うとはどういうことかを教えるためでもあります。聖書の教えと違っている場合は、「人に従うより、神に従うべきです」（使徒 5:29）という原則に従いましょう。

パウロは、『あなたの父と母を敬え。』これは第一の戒めであり、約束を伴ったものです。すなわち、『そうしたら、あなたはしあわせになり、地上で長生きする』という約束です（エペソ 6:2～3）と書いています。神様は私たちが父と母を敬うなら、この世において、幸せになり、神様の祝福をたくさん受けるという約束を与えてくださいました。

親に対してさまざまな思いもあることでしょう。でも神様は、あなたが親との関係をよいものに保つことを喜んでくださいます。そのために祈りしましょう。

7 誘惑にどう対処するか

わたし

私たちは大変誘惑の多い時代に生きています。

コマーシャルは、いつも私たちに「あれもほしい、これもほしい」という思いを起させます。携帯やパソコンで神様が望まれないサイトを見てしまう誘惑、心の中で他人を悪く思ったり、ねたんだりする誘惑、自分は価値のない人間だと思ってしまう誘惑など、いくらでも誘惑があります。

なぜ誘惑は存在するのでしょうか？それは、私たちの内に罪を犯す弱さがあり、またサタンが存在するからです。サタンは別名「試みる者」と言われるように、私たち人間の弱さに働きかけ、罪を犯すように導き、私たちを神様から引き離すようにしています。「身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたける獅子のように、食い尽くすべきものを捜し求めながら、歩き回っています」(1ペテロ 5:8)と聖書は言っています。

では、誘惑にどう対処したらよいのでしょうか？

第一に、自分は誘惑に会わないと思わないことです。「自分は大丈夫」、「自分は関係ない」と思っていること自体、サタンのわなにはまっています。イエス様も誘惑に会われました。誘惑に対処することは、「霊的な戦い」であることを自覚しましょう。

第二に、サタンの策略を知ることです。敵を知れば、その対策を考えることができます。サタンは私たちが楽をして近道できるように見えることを言ってきます。「そのとおり、これが手に入ったらすばらしいよ」「これは気持ちいいよ」「みんなやっていることだよ」「少く大丈夫」というような誘惑を絶えずしかけてきます。また、サタンは私たちが罪を犯す可能性のあることしか誘惑してきません。サタンは巧妙に、その人がその時、一番弱っている所、一番誘惑を受けやすい所に働きかけてきます。さらに、サタンは私たちを神様から離れさせ、信頼しないように誘惑します。「神様を信じていて何かいいことある？」「祈りが本当に聞かれた？」「本当に神様っているの？」など、絶えず神様に対する不信をいだかせるように誘惑してきます。



第三に、神様に信頼することです。サタンの誘惑に打ち勝てる唯一の方法は、神様と神様の言葉に信頼することです。聖書の言葉を自分の心に刻みつけ、それを生きる指針とする人は、誘惑に打ち勝つ最高の手段を手に行っているといえます（エペソ 6:10～18）。

第四には、教会にしっかりつながることです。私たちは一人だと誘惑に対してとても弱い者です。しかし、信仰の仲間といっしょに祈り合い、励まし合って、絶えず主を見上げて歩んでいくなれば、誘惑に打ち勝つことができます。

いろいろ努力しても誘惑に負けて罪を犯してしまうこともあります。そんな時は、しっかりと悔い改めて神様に赦していただきましょう。私たちはやり直しができます！「もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます」（Iヨハネ 1:9）。みんなで祈り合い、神様に信頼して、サタンの誘惑に勝利しましょう！

8 失敗や挫折の扱い方

あなたは、これまでに失敗や挫折をしたことがありますか？



勉強での失敗、部活での挫折はありませんでしたか？精一杯やったのにうまくいかなかったという経験、自分の力が足りずに途中で投げ出したという経験はありませんか？失敗や挫折は、必ずしも罪によるものではありません。算数の世界には、 $1 + 1 = 2$ という正解があり、それ以外は間違いになりますが、私たちの生きる世界には答が1つということは少なく、正解がないことが多くあります。私たちは、たくさんの中から最も良いと思うものを選択するわけですが、後になって「あっちよりもこっちを選択しておけばよかった」と悔いることもあるのではないのでしょうか。私たちは人生の中でたくさんの失敗や挫折をしますし、その経験のない者はいません。

失敗を恐れるな

でも、失敗を恐れて、尻込みしてしまつては、もったいない人生を送ることになります。私たちは失敗を糧に、その失敗を繰り返さないようにと次のステップに進みます。そして、より良い結果を得ていくことができます。挫折するからこそ、その挫折をバネにして、実力をつけていこうと努力します。そして、より成長したものになっていくことができます。失敗や挫折は、私たちの生き方を強く、また豊かにしてくれるものなのです。ですから失敗を恐れず、いろんなことに挑戦していきましょう。

失敗や挫折が神様に信頼するようにさせる

私たちは、順調な時には自分の力で生きている、また生きていけるように思い込んでしまいます。それで、あまり神様を身近に感じていません。しかし、大きな失敗をしたり挫折したりすると、無力さを自覚します。そして、神様に頼らなければ生きていくことができないことを悟り、神様を身近に感じます。ヤコブ1章2～4節は、「私の兄弟たち。さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。信仰がためされると忍耐が生じるということを、あなたがたは知っているからです。その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは、何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者となります」と言っています。このように、失敗や挫折は、神様が自分の近くにいることを感じさせて、信仰を深め、成長するチャンスになるのです。

人生は一人ひとり違う

私たちの人生は一人ひとり違います。生まれ育った環境も、持っている才能も違います。失敗や挫折の内容も時期も、人それぞれ違うのです。それは神様が私たちそれぞれに特別な計画を用意しておられるからです。「わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているからだ。—主の御告げ—それはわざわざではなくて、平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ」(エレミヤ 29:11)。ですから、ほかの人と比べることなく、失敗や挫折もある自分の人生を、精一杯生きていきましょう。神様に信頼して前進するとき、私たちには希望と平安が与えられ、神様の祝福と恵みに満ちた将来を期待することができるのです。

9 他の宗教・偶像礼拝・占い

あなたの家の近くには、お寺や神社がありますか？

私たちが住んでいる日本には、たくさんのお寺や神社があり、八百万の神が存在していると言われています。受験の神様、縁結びの神様、お金の神様といったことばを聞いたこともあるでしょう。でも、

これらの神々は、人間の手で作られたものであったり、自然にあるものをそのまま使ったものです。ですから、実際には神様はそこに存在しません。それに対して、私たちが信じている聖書の神様は、唯一の實在の神様です。この天地万物を創造され、私たちが造られた神様の他には、神はいないのです（I コリント 8:4～6）。

たくさんの神様がいることをおかしく思わないこの日本では、唯一の神様だけを信じているという、良い顔をされないこともあります。キリスト教は排他的な宗教だといわれて批判されることもしばしばです。かといって、人の手で作られた神々を認めることも、拝むことも、私たちにはできません。なぜならこれは、偶像礼拝になるからです。そして、私たちの信じる神様は、この偶像礼拝を極端に嫌われます。十戒の第二戒で、「あなたは、自分のために、偶像をつくってはならない。・・・それらをお拜んではならない。それらに仕えてはならない。あなたの神、主であるわたしは、ねたむ神・・・」（出エジプト 20:4～5）と命じられているとおりです。ですから、聖書の神様を信じている私たちは、時には、「私は拝むことはできません」とはっきりした態度をとることも必要になります。

でも、私たちは気がつかないうちに偶像礼拝をしてしまう危険性があります。それは、創造主なる神様以外のものを頼りにすることです。たとえば、お金、権力、間違った教え、占い、自分自身などに信頼し、それを信じることもまた偶像礼拝なのです。

さて、ここで占いについて考えてみましょう。今テレビでも、ラジオでも、雑誌でも、占いや霊能力などがさかんです。みんなの中にも、占いを見るのが好きな人がいるかもしれません。でもクリスチャンである私たちは、占いを見ないことが望ましいでしょう。なぜ、占いを見ない方がいいのでしょうか。それは、占いをすることで、神様よりも、占いの内容を信頼してしまう恐れがあるからです。



「**占いをする者、卜者、まじない師、呪術者、呪文を唱える者、霊媒をする者、口寄せ、死人に伺いを立てる者があってはならない**」(申命記18:11~12)。とあるように、占いは聖書の中で明確に禁止されています。占いは私たちを神様から引き離すサタンの道具であって、私たちを滅びへと向かわせるのです。また、最初のうちは、占いに影響されないと考えていても、いつの間にか、占いの結果に縛られるようになってしまいます。確かに、私たちは誰でも幸せでいたいですし、未来を知りたい願望があります。判断するのに難しい状況に出くわしたら、占いなどに頼りたくなる気持ちもわかります。でも、神様が求めておられることは、ただ神様に信頼することです。どうしたらよいか迷うときは、聖書を開き、みことばに聞きましょう。私たちの歩みは、神様が御心のままに最善に導いてくださいます。

「**みことばに心を留める者は幸いを見つける。主に拠り頼む者は幸いである。**」(箴言16:20)

10 死の問題

みなさんは、ペットや家族の死を経験したことがありますか？

死は、人間にとって本当に悲しいものです。そうした経験のある人は死について深く考えたことがあるかもしれません。死に対して恐れを抱いて眠れなくなったという中高生もいます。反対に、あまり死について考えたことがない人もいます。でも実は死というのは、だれにでも必ずいつか訪れるものです。死から逃れることのできる人は存在しません。



リセットで生き返らない

ゲームをしていると、バーチャルの世界で死を経験することができます。そのゲームの中では、リセットすれば死んだ人は何度も生き返り、また最初からやり直すことができます。しかし、それはゲームの中だけのことで、現実の世界では人は一度死ねば生き返ることができません。死んだ人と会いたいと思っても生き返ることはなく、二度と会うことはできないのです。やり直せばいいと思っても、死が訪れたら終わりです。現実の死にリセットはきかないのです。ですから殺人はもちろんですが、自殺も、私たちが愛して造ってくださった神様をととても悲しませることになります。

死んで終わりではない

また、人は死んだら、存在として無くなってしまおうと思っている人も少なくありません。確かに、からだは火葬などの後にはなくなるでしょう。しかし聖書は、その人の魂はなくなると言いません。

「ちりはもとあった地に帰り、霊はこれを下さった神に帰る」(伝道者12:7)。死んだ人の魂は、いざれ神の前に立ちます。そして、イエス・キリストを信じ「永遠のいのち」をいただく人と、そうでない人に分けられます。「永遠のいのち」を持った人は、祝福に満ちた世界に住むことになります。しかし「永遠のいのち」を持たない人は、神様の祝福のない世界にいなければなりません。そのような死んだ後の世界が私たちを待っていることを忘れてはなりません。

ですから、イエス・キリストを信じることは、今生きている時もたくさんの恵みをいただく大切なことですが、死んだ後のことを考えるともっと重要なことです。イエス・キリストを信じて、洗礼を受けたあなたには、永遠のいのちが保証されています。「御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つ」(ヨハネ 3:16) と書かれているとおりです。クリスチャンにとっての死は、この地上での別れを意味するので悲しいという点では、クリスチャンでない人と変わりませんが、この地上での戦いを終え、神様からいただいた「永遠のいのち」によって生き、イエス様と共にいるという祝福に入るときでもあります。クリスチャンの中には、天に凱旋するので、自分のお葬式には、ハレルヤコーラスを歌ってほしいという人もいます。

また、「永遠のいのち」をいただいた者同士にとって、死は永遠の別れではありません。あなたは今、教会でともに歩んでいる兄弟姉妹たちとも、また歴史上、世界中にいた大勢のクリスチャンたちとも、死んだ後の世界で会うことができ、神様と顔と顔を合わせて会う喜びにひたることになるのです。この特権を喜んで、地上の人生を生きていきましょう。「私たちの国籍は天にあります」(ペリピ 3:20)。

11 携帯やネットの使い方

携帯電話やインターネットを使っていますか？



便利なものですが、これらは正しく使う必要があります。たとえば、こんなトラブルが実際に起こっています。

- ・ネットを通して、いじめたり、いじめられたりした。
- ・メールのやり取りで感情的になって、気まずい関係になった。
- ・メールにすぐに返信するために、1日中携帯を手放すことができない。
- ・ネットに登録したら、知らない人から誘いのメールが届くようになった。
- ・携帯やネットを通して、有害サイト（アダルト・暴力・自殺・出会い系など）を見てしまう。

携帯やネットの使い方については、すでにあなたは学校でたくさんの情報を得ていると思います。ここでは、このことについて聖書は何を教えているか見てみましょう。第1コリント6章によると、当時のコリント教会の中には、自分たちはキリストによって救われて自由にされたから、あとは何をしようがかまわない」と主張している人たちがいました。

この考え方に対して、パウロは2つの点から反論しています。①「すべてのことが私には許されたことです。しかし、すべてが益になるわけではありません」(6:12)。自由だからといってすべてのことが益になるわけではないのです。②「私にはすべてのことが許されています。しかし、私はどんなことにも支配されはしません」(6:12)とパウロは言っています。自分では自由だと思ってやっても、かえってその行動に支配され、やめられなくなることがあるのです。

私たちが携帯やネットを使う時に、一番心がけるべきことは何でしょうか？それは、「あなたがたは、食べるにも、飲むにも、何をするにも、ただ神の栄光を現すためにしなさい」(Iコリント10:31)とみことばにあるとおり、何をするにも、ただ神様が喜ばれることを目指していくことです。そのために、あなたの家や教会で、携帯やネットの使い方のルールをよく話し合っ決めて決めることが大切です。

1. 正しいメールの使い方（ネチケット：ネットのエチケット）を学びましょう。相手の表情が見えないので、コミュニケーションが大変むずかしいのです。決して悪口は書き込まない。匿名の無責任なメールはしない。大切なことは、直接会って伝える。急いで返信しない。よく考え、何度も読み返してから送る。異性間で簡単にメアドを交換しない。使用時間帯、使用時間や使用金額の制限を設ける。など。

2. 自制がきかなくなってしまうことを避けるために、携帯やネット、ゲームやテレビはできるだけ親の目の届くところで使しましょう。自分の部屋での利用は、制限がなくなりやすいのでなるべく避けましょう。できれば、携帯電話置き場を決めて、使い終わったらその場に置くようにするとよいでしょう。
3. フィルタリングを使いましょう。残念なことに、ネットの世界には人をだましたり、犯罪に巻き込もうとする人たちがたくさんいます。フィルタリングを使って、できるだけ危険を減らしましょう。
4. 携帯やネットを切ることができない、ないと不安で仕方ないという人は、携帯やネットに支配され、依存状態に陥っている可能性があります。親や教会の先生に相談しましょう。必要な時は、医師にも相談しましょう。
携帯やネットを正しく使って、神様の栄光を現していきましょう！

12 新たな文化・趣味について

あなたはどんな趣味を持っていますか？

私たちはめまぐるしく変化する時代に生きています。私たちの関心や興味もどんどん変わっていますね。アニメ、マンガ、コスプレ、フィギュア、ネットゲー、メイド喫茶、さまざまな音楽ジャンルなど、新しい文化・趣味が次々に生まれています。このように新しく生まれてくるものと、私たちはどのように関わっていけばいいのかを考えることが大切です。

ときには心にブレーキを！

神様はイエスを十字架にかけてくださったほどに、私たちを愛してくださいました。ですから、私たちは、神様のその愛にこたえて、何をするにも神様の栄光を求めて生きることが大切です（1コリント 10:31）。神様があなたのしていることをご覧になられて、神様の栄光を現していると思っただけかどうかを考える必要があります。

ですから自分の趣味や関心も、神様がお喜びになるかどうかを、聖書を基準に考えましょう。たとえば十戒の第六戒には、「殺してはならない」（出エジプト 20:13）と書かれています。ゲームで、バーチャルではあっても、敵をバツバツと切り殺していくことを繰り返すうちに、しだいに私たちの殺人に対する嫌悪感がマヒしていく危険性があります。また、第七戒には、「姦淫してはならない」（出エジプト 20:14）と書かれています。性的な刺激の強いものはよくありません。たとえば、マンガでも健全なものはたくさんありますが、過激な性的な描写があるものは危険です。また第十戒には、「あなたの隣人のものを、欲しがってはならない」（出エジプト 20:17）と書かれています。たとえば、カードゲームにのめりこむと、さらにカードが欲しくてお金をつき込んでしまう、高額なカードを買いたくなるということもできます。自分の使えるお小遣いの限度を超えて買いたくなる誘惑もあるのです。楽しくても、自制する必要があるところは自制しなければならないのです。

けれども私たちは弱いので、ときどきブレーキがきかなくて失敗してしまうこともあります。そのときには、神様の前に素直に悔い改め、赦していただきましょう（1ヨハネ 1:9）。また信頼できる人、両親、教会の先生に話して助けを求めましょう。



あなたの居場所はどこ？

私たちは、文化や趣味の中に自分の居場所を求めるものです。でもクリスチャンの居場所はそこだけではありません。なぜならクリスチャンは、イエス様との交わりの中に、一番ほっとできる場所を見つけることができるからです。ですから、自分の趣味の世界にだけ自分の居場所を見つけるのではなく、イエス様とともに歩み、イエス様とつながっていることに自分の居場所を見つけましょう。教会はあなたのために居場所を用意しています。

聖書には、「神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます」（マタイ 6:33）と書いてあります。趣味があるのは素敵なことですが、何よりもイエス様が第一となるといいですね。

神様が喜ばれることは何かを考えながら、あなたの趣味を楽しみましょう。